

3 慢性心不全患者における夜間低用量酸素吸入療法の急性効果に関する検討

伊藤 正洋・阿部 亮
遠藤 太郎・三浦 理
丸山 誠太郎・山口 修
真田 えい・丸山 聡
大西 昌之・渡部 透
柴田 昭
小玉 誠・相澤 義房
(新潟南病院 内科)
(新潟大学 第一内科)

【背景】低酸素血症を伴う慢性呼吸不全、慢性心不全患者に対する在宅酸素療法を中心とする酸素吸入療法はすでに広く普及している。しかし、症状が安定している慢性心不全患者に対する酸素吸入療法の効果についての検討は少ない。

【対象と方法】当院に入院中のコントロールされた慢性心不全患者のうち、酸素吸入無しでも動脈血酸素飽和度が80 mmHg以上であり、かつ呼吸困難の訴えがない9例(平均73歳, NYHA 分類 class I 1例, class II 2例, class III 5例, 寝たきり1例)を対象とした。閉塞性呼吸器疾患を有する患者については除外した。夜間酸素投与時(1-2L 経鼻)と非投与時で、パルスオキシメーターを使用し酸素飽和度、心拍数を測定した。さらに早期安静時のカテコラミン濃度、BNP 濃度、心エコーの各種パラメーター、自覚症状をそれぞれの状態について検討した。

【結果】酸素非投与時に比し、酸素投与時では夜間酸素飽和度は上昇し、夜間心拍数、ノルアドレナリン濃度は低下する傾向にあった。酸素投与時と非投与時において、早朝のBNP 濃度、心エコーの各種パラメーター、自覚症状に変化は認めなかった。

【結論】コントロールされた慢性心不全患者においても、夜間酸素吸入療法は有効な治療法の一つになりうる可能性が示唆された。

4 Interleukin-10遺伝子導入による心筋炎治療について

Mir I I Wahed
馬 梅薔・井上 幹雄(新潟薬科大学 臨床薬理学)
斎藤 由紀・渡辺 賢一(新潟大学 保健学科)
仲澤 幹雄(新潟大学大学院 医歯学総合研究科 循環器分野 医学部第一内科)
布施 公一・塙 晴雄
加藤 公則・小玉 誠
相澤 義房

(1) サイトカインのインターロイキン(IL)-10は、単球やマクロファージの主要組織適合抗原(MHC)クラスII分子の発現と炎症性サイトカイン(IL-1, IL-6, IL-8, IL-12, TNF- α など)の産生を抑制する。さらに、Th1のT細胞機能やメタロプロテアーゼ発現を抑制する。

IL-10は抗炎症などに有用と考えられるが、サイトカインそのものを生体内に投与すると半減期が非常に短く期待されるほどの成果は得られない。したがって、サイトカイン療法の最も重要な問題点は、いかにして必要な場所で長時間十分量を保てるかというドラッグデリバリーシステムの問題である。その1つの解決法が遺伝子治療である。

(2) Enhancer サイトメガロウイルス, Promoter キッチン β アクチン, XhoI ラビット β グロビンポリAサイトにマウスIL-10 cDNAを組み込んだプラスミドを使用した。プラスミド800 μ g/ラットを3回(ミオシン注射5日前, 4日後, 13日後) Electroporation 法にて自己免疫性心筋炎モデルラットに遺伝子導入した。ミオシン注射21日目には組織学的に心筋の炎症が抑制され、心血行動態の改善が見られた。

II. 一般演題

1 心タンポナーデを発生した放射線照射による心膜炎の1例

小林久里子・宮川 芳一(県立がんセンター)
岡田 義信(内科)

【症例】65歳の女性

【既往歴】43歳：左乳癌根治術, 47歳：右乳癌根治術及 chemoradiation (縦隔を中心に広範囲